

令和 4 年度 連携研究スキームによる研究（委託研究課題）
研究成果等概要報告書

	課題番号	21476926
研究テーマ名	地域農業の持続可能性の向上に向けた農業法人の総合的企業価値の評価手法の開発に関する研究	
委託研究課題名	企業価値評価手法を活用した農業法人の経営評価手法の開発	
研究実施期間 （西暦）	2021 年度 ～ 2023 年度（3 年間）	
中核機関・ 研究総括者	株式会社事業性評価研究所 代表取締役社長 田井政晴	

1 研究の進捗状況等

事業分析手法の構築と、企業価値評価手法の開発は予定を上回る進捗である。特に ESG 投資や企業評価方法は実務家や精通者の意見を幅広く聴取することで事業分析手法が充実した。また農業法人の試行的評価は、試行的評価予定先の選定を先行させているが、経営形態や経営多角化状況において特色ある農業法人の発掘が順調に進んでいる。

① 農業法人の事業分析手法の構築

外部有識者からは、事業分析を効果的に実行するためには、評価項目間の関連性に留意して調査項目を精査するべきとの指摘があった。具体的には、事業承継等を契機とした事業評価の取組みの際には、事業承継支援ニーズの掘り起こし、事業承継計画の策定支援の場面で様々な専門性を持つ専門家の参加が想定されるが、各専門家間で共有可能な理解されやすい用語を定義すること、事業者ヒアリングの際にミスリードすることのない様な補足説明が必要であるなどの意見があり、分析手法の向上に役立てることが出来た。

② 農業法人の企業価値評価手法の開発

農業法人の企業価値評価を求めるうえで、検討プロセスの検証と実行可能性について検討した。貸借対照表の再構成、投下資本の時価評価、事業価値の評価、のれん相当分の分析、の各段階の理解と、評価手法の適用方法、NOPAT（税引き後営業利益）の考慮の際の補助金等の存在についても議論を行った。高 ROIC を実現させている要因としての定性的価値の分析意義を踏まえて、持続可能性についての議論を今後もいっそう深めていきたい。

③ 事業分析と企業価値評価を活用した農業法人の試行的評価

コロナ蔓延の影響を受けて、農業法人に対する実地調査計画は修正を余儀なくされている。試行的評価予定先の農業法人への面談を積極的に行うことで研究実施期間内に行うべき試行的評価の候補先は充足しつつある。試行的評価を行うための処理計画の策定や工程表の作成、農業類型・地域類型・事業規模等に応じた専門家の協力体制、必要資料の収集や秘密保持に関する表明、質問シートの試験的運用などを先行させることで、試行的評価に必要な準備は整った。